

うれしいたのしいえこだマルシェ 第3回目は晴れ

1年前に荇子田民生チーム（代表：吉村なお子）で始めた「うれしいたのしいえこだマルシェ」は、第3回目を迎えました。

11月18日（土）は天候に恵まれ、太陽公園の屋内外を存分に使い、もう一つのマルシェの形ができたように感じます。公園広場では「KUKURUたまプラーザ」「桃の実」「えだ福祉ホーム」が物販店を開き、毎回参加の作業所通所者も販売を担い、ローズハウスからは「ワーワー」とポッチャ体験の歓声。広場を囲む生垣に沿って通所の人たちの絵画が並び、その先にあるジャングルジムは、麻生支援学校元石川分教室の高校生たちが描いた三枚の旗と作品、荇子田小学校のまなび級の子どもの絵画も横のテントに並ぶ。展示物はどれもみんな個性を主張し楽しい。11時から3時間の開催。常時35人ぐらいの人が居てゆっくりと物販と展示に見入る。障害のある方々も多く来ました。住民グループ「ローズカフェ」はコーヒーを提供し、「ルーチェ」はオープンとランチタイムにトーンチャイムの演奏を響かせる。設営などには自治会の方々の積極的な協力もありました。地域の皆様のあたたかいご協力に感謝いたします。



障害への理解が少しでも広がり深まればと思いつつ、次も天気になあーれッ！

↓ 公園・ジャングルジムも うれしいたのしい展示会場



<山内北部地区民児協 荇子田民生チーム 保科達夫>

山内地区民児協 研修報告

9月22日横浜保護観察所を見学して来ました。同所は犯罪を起こした人や非行のある少年が社会の中で自立できるように、社会復帰の為の指導・援助を行っています。この制度は、明治時代に金原明善が始めた「静岡県出獄人保護会社」が土台となっていて、「地域の人々の理解と協力で成り立っている」とのお話でした。



近年、再犯者の割合が増えているそうです。政府も「世界一安全な国、日本」を目指して、再犯防止を唱えています。地域で見守り、再犯を防ぐ。見守りの大切さを確認しました。<清水>

青葉ふれあい見守り事業地区連絡会

11月29日山内地区センターで開催されました。甘粕弘志氏（高齢者施設・住まいの相談センター）を講師に迎え「高齢者の住まいを今から考えて見ませんか」のテーマで行われました。

地区連絡会は、民生委員、保健活動推進員、友愛活動員で連携しながら、ひとり暮らし高齢者等への見守り体制づくりを推進しています。

編集後記

今年はコロナが5類になり、当地区社協でも本号記載のたくさんの行事が久しぶりに行われました。取材にご協力くださった皆様に感謝申し上げます。来年もまた、「ふくし山内」をよろしくお願いいたします。
<清水・前原・南>

ふくし山内<46号>

令和5年12月5日発行
山内地区社会福祉協議会
会長 野本 建夫

令和5年度 山内地区 各種表彰

山内地区で各方面に長年ご尽力いただき、表彰された皆様をご紹介します。

第29回青葉区社会福祉大会 社会福祉功労者表彰

吉村 春美 <山内地区社協相談役>
齋藤 正夫 <新石川下谷自治会会長>



横浜市社会福祉・保健医療功労者市長表彰

民生委員・児童委員 15年以上
西崎 和枝 <山内地区民児協>
民生委員・児童委員 10年以上
富田 正子 <山内地区民児協>
谷野 季未子 <山内地区民児協>
曾根 美紀 <山内地区民児協>
西家 かすみ <山内地区民児協>

三枝 親子 <山内北部地区民児協>
前原 由美 <山内北部地区民児協>
奥原 千恵子 <山内北部地区民児協>
久米田 智子 <山内北部地区民児協>

皆様、おめでとうございます。

赤い羽根共同募金

例年10月1日にあざみ野駅コンコースにおいて赤い羽根共同募金が行われています。

今年も山内地区・山内北部地区の民生委員が皆さんに呼びかけ、たくさんの募金をいただきました。

ありがとうございました。



賛助会費ご協力の皆様へ

賛助会費のご協力をいただいた個人・団体の皆様に心より感謝申し上げます。お預かりした会費により、山内地区の地域福祉向上に尽力してまいります。今後も引き続き山内地区社協へのあたたかいご支援をお願いいたします。

<事務局長 吉村なお子>

高齢者交通安全講習会

9月19日にJA山内支店にて老人会をはじめ多くの皆様に参加いただき、久しぶりに高齢者交通安全講習会を開催いたしました。

橋谷田署長を始めとする青葉警察署の皆様から交通安全に関わるだけでなく、特殊詐欺の詳細な情報などの話もあり、有意義な時間を持ってました。

最後は「腰永小百合・高倉善」のお二人と一緒に恒例の交通安全エアロビックで身体をほぐし、青葉交通安全協会によるビンゴゲームで交通標識を楽しく学んだ講習会でした。 <前原>



野本会長 橋谷田署長 工藤青葉交通安全協会会長



第50回山内地区レクリエーション大会

10月1日山内中学校のグラウンドで山内地区の12自治会が集まって運動会が開催されました。猛暑の続いた今年でしたが薄曇りの絶好の運動会日和となりました。

4年ぶり、しかも50回目の記念大会を実施することで実行委員・参加者ともども大変張り切っていました。

大会委員長の挨拶に始まり、来賓の祝辞に続いて、今年50歳になる選手の宣誓により競技が開始されました。小学生から80代の高齢者までが参加できるプログラムが生まれ、しかもその中に自治会対抗の競技も含まれていて、大人と子どもが競う場面では子どもたちが大きな声で声援を送り大いに盛り上がりました。徒競走では、コーナーを回る際に転倒する人もいました。また、風船を座って割る「けつあつ競争」では、勢いよく座っておしりを傷めないか心配になりましたが、いずれも大きなケガもなく全員完走しました。

そして、お昼の休憩時間には山内中学校吹奏楽部の「演奏」、女性部による「民謡と青葉音頭の踊り」、あざみ野第一小学校児童による「踊れソーラン」、國學院大学学生による「演舞」が披露され大会に華を添えました。自治会対抗競争は保木自治会が前回に続き優勝して全競技を終えました。今年はグランドゴルフを取り入れて、高齢者向けの競技を増やしたとのこと。高齢化が進む地域にも添った素晴らしい大会でした。

<清水>



4年ぶりに研修バス旅行開催される

11月15日(水)天候曇りでしたが4年ぶりに山内地区社会福祉協議会による研修旅行が開催されました。

訪問先は山梨県富士吉田市にある「慶和荘グループ複合型施設」です。

今回の研修には地区内の7団体40名が参加し(山内地区民児協、山内北部地区民児協、東地区保健活動推進員会、西地区保健活動推進員会、ボランティア山内、ぐるうぶあざみ野、うたごえサロン)、バスの中で吉村なお子事務局長の司会により野本会長、安井さん(青葉区社協)よりご挨拶の後に各団体より活動報告が行われました。コロナが第5類に分類されたことにより、活動再開の喜びと共に一層の奮起を込めた報告が行われました。

さて、「慶和荘グループ複合型施設」ですが、開設は2004年11月に特別養護老人ホームに始まり、その後各福祉事業を拡充し、2023年に幼児、障害者、高齢者までの7事業を一つの施設で行う日本で初めての「複合型福祉施設」としてスタートしました。(保育園、病児・病後児対応型保育園、放課後等デイサービス、障害者生活介護、就労継続支援A型、ショートステイ、特別養護老人ホーム)

当施設は3階建てで、トイレ、介護者用浴室、居室など設備も整い想像以上に広いことに驚きました。そして何より障害を持つ子供たちが、同じ施設に何年も通えるということでした。職員の方より環境が変わらないということは不安の軽減につながるという説明がありなるほどと納得しました。

最後に「従業員の満足なくして、ご利用者の満足なし」という立川理事長の理念が示すように、コロナ禍においても従業員130名の(現在160名)離職者が1名も無く、また、案内の方から従業員の声を聞いてご利用者へのサービスアップなども行えた事例を伺うことができ、今回も大変有意義な研修となりました。

<南>



<団体紹介> たまプラごはん

「たまプラごはん」は2016年2月地域小学校の児童専任の先生が自身の転任が近く「気になる生徒を地域で見守ってもらえる子ども食堂があれば…」という言葉で、当時のたまプラザ地域ケアプラザ大重所長のご協力と新石川小学校片山校長先生のご理解をいただき、同年4月に開店しました。

貧困ではなく放課後ひとりで居る孤食の子を地域の大人と繋げる目的で月に1回ですがワイワイ騒いで食事する居場所を提供しています。不登校児や不登校OB・OG、子育てにちょっと疲れたお母さんなど、参加者は多彩です。

コロナ渦中は子どもたちが工作をした後に持ち帰ってもらうパンやコロナ禍前から年2回無償でラーメン・炒飯・餃子セットを提供してくださっている「赤坂一点張」さんのお弁当、地元牛乳店提供の牛乳などを用意しました。参加者も減ることなく、5月からは会場内で食事提供を開始し、地元の方々からお米を始め野菜やおやつを寄付をいただき順調に再開できました。

これからもスタッフ一同「地域の口うるさいおばちゃん」グループとして穏やかな見守りを兼ねた食堂を続けていきます。

<こども食堂 たまプラごはん 青木 利江>

